

第4回三軒茶屋駅周辺まちづくり会議
(検討委員会委員長メッセージ、仮称「三茶のミライ」素案の報告)
文字起こし

【00:05～】検討委員会委員長メッセージ

こんにちは。三軒茶屋まちづくり基本計画の検討委員会の座長を務めさせていただきました、坂井と申します。今日は、三茶のミライを話し合うために、たくさんの方にお集まりいただき、本当にありがとうございます。

三茶のミライは、2019年から議論を重ねて計画案を策定し、現在区民意見を募集中でございます。今日のまちづくり会議は、そうした計画案の策定のお披露目と、そして皆さんからの意見募集ということで開催させていただいております。この基本計画の前に、基本方針というものも作成しております。それを具体化するために、検討委員会が立ち上げられて基本計画を作ったわけですが、その基本計画を策定する中で、まちづくりシンポジウムや、3回のまちづくり会議を経て、区民の方々の意見を集約しながら作成いたしました。基本計画というのは、行政的な感覚から言うと、行政が主語で行政がこれからこういうことをするという計画を示すものなのですが、この2年間ぐらいは、議論の中で市民と行政がともに作っていく三茶のミライということで、市民と行政がともに主語になるというのが、この計画の非常に特徴的なことだというふうに思っております。

そもそも、日本だけでなく世界的にも非常に変化が激しい時代に入っております。日本でいえば少子高齢化ですが、気候変動は世界的な問題ですし、まさに現在は感染症拡大で、それ以前からあったデジタル化という、このようにオンラインで会議をするようなことも急速にこの2年間で発達しました。

そういった中でまちづくりというものも、どんどん変わってきております。以前から、市民参加によるまちづくりということは言われておりましたけども、それも急速に進んでいるというふうに感じています。例えばアメリカでは、タクティカル・アーバニズムというような標語のもと、小さなアクションから都市を変えるという、その副題は、短期的アクションが長期の変革をもたらすということで、これからは、そのアクションというものが非常に重要だというようなことは、アメリカで10年以上前に言われたことであります。最近日本でも多くの場所で実践され、本が出ているような状況でございます。その根底には、プレイスメイキングという言葉も皆さん聞いたこともあるかもしれませんが、ソフトとハードの一体的なまちづくりということで、その空間があってもそこが皆さんの場となるような、そういった場づくりというものがなければ、ただの空間であったり、箱であるという、そういったまちづくりではなく、みんなでそれを利用し、場とすることが目指されています。エリアマネジメントという言葉も昨今聞かれますが、それはやはりそのエリアの価値を高めるためにやはりこのプレイスメイキングという取り組みを皆さん展開しているというようなことです。こうした取り組みは、もちろん行政だけでできるものではなく、まさに公民連携で市民の皆さんとともにやっていくということが、非常に重要になってきているということ

です。

三茶で働き、生活する皆さんによるまちづくりを今後も続けていってほしいということで、そのためには、まずはご自身が関心のあること、興味のあることから始めるというのが、一番良いと思っています。ですので、今日のトークセッションや意見交換を通して、まずは皆さんの想いを共有し、何かのアクションへと繋がると良いと思っています。

世田谷区は、昔からまちづくりが非常に盛んで有名なまちです。その中でも、三茶らしい、新しい時代のまちづくりがこうしたまちづくり会議を通して、どんどんと始まっていけばいいなというふうに思っています。三茶のミライは、皆さんの手の中にあると思っておりますので、今日の会議でぜひ、活発に色々な意見交換をされて、ますます皆さんの手からまちづくり、三茶のミライを作っていただければと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【04:57～】仮称「三茶のミライ」素案の報告

【05:09～】スライド「(仮称)三茶のミライ(三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画)(素案)ご報告」

皆さんこんにちは。世田谷区 都市整備政策部 市街地整備課の中杉と申します。本日は、お忙しい中、まちづくり会議にご参加いただきありがとうございます。この度、取りまとめました、(仮称)三茶のミライの素案のご報告いたします。

【05:32～】スライド「策定の背景」

三軒茶屋駅周辺は、世田谷区都市整備方針において、商業・業務・文化などの機能が充実した、「広域生活文化拠点」として位置づけられており、親しみやすく、庶民的雰囲気をもつ拠点として、様々な要素がバランスよく共存していることから、訪れる面白さと住むための快適さを備えているまちです。

都市の骨格となる基盤整備は、昭和39年に開催された東京オリンピック前後に行われ、平成8年に市街地再開発事業により、完成したキャロットタワーとともに地下道の整備や歩道拡幅整備、また、世田谷パブリックシアターも合わせて整備されました。これらの整備により、歩行者の交通利便性を高め、区の内外からの人を集めておりますが、それ以降、まちに大きな変化をもたらす大規模な改修や更新は行われていません。そのため、まちの回遊性、滞在性、防災性の向上などには課題もあります。

こうした課題の解決には、まちを構成している道路や広場などの空間と商業施設や住宅などの個人や事業者などにより創出される空間、これら公共的な空間を一体的に捉えてデザインし、柔軟な活用に結びつけていく必要があります。そのためには、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多くの人々がソフトとハードの一体となったまちづくりへ参加し、まちの利活用の幅や可能性を広げていくことが不可欠です。

【07:40～】スライド「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」

そこで、多様な主体がビジョンを共有し、連携してまちづくりを進めるため、平成31年3月、まちのビジョン「進化し続ける三茶クロッシング」を示した「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」を策定しました。この基本方針の中で、まちの特色として「継承し、残していきたいまちの魅力」、「空間動線や安全面での課題の多い都市基盤」、「発展の契機を活かした新しい魅力創出の可能性」を3つ挙げており、まちのビジョン実現に向けて、「つたえる」、「つなげる」、「はぐくむ」という3つの方針及びこの方針に基づいて9つの方策を示しています。

【08:40～】スライド「三茶のミライの目的と位置づけ」

基本方針で示したまちのビジョンを実現するためには、まちの未来の姿を思い描きながら、身近な困りごとの解決など、できることから始めて、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体である「みんな」で、まちの未来像実現のための取組みを着実に積み上げていくことが重要です。「三茶のミライ」は、みんなで「まちの未来像」を描き、「まちの未来像実現のための取組み」を共有し、相互連携によるソフトとハードが一体となったまちづくりの進め方を明らかにすることを目的としています。

多様な主体が連携したまちづくりの取組みを行うための「みんなの計画」であることを基本理念とし、「まちの未来像」、「未来像実現のための取組み」、「未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」、「まちづくり推進プロセス」を示しています。「三茶のミライ」の対象区域は、基本方針と同様、三軒茶屋交差点を中心とした、概ね半径300m以内の区域としています。

【10:00～】スライド「なぜ三茶のミライ？みんなとは？」

ここで、どうして、名前が三茶のミライというのか、ご説明いたします。「三茶のミライ」という名前は、この計画を誰でも親しみやすく気軽にとってもらえるように、「三茶」という気さくさと、カタカナの「ミライ」が出すポップさと柔らかさを掛け合わせて命名しております。また、みんなの計画のみんなとは、区民・事業者・町会・商店街・大学・世田谷区など三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体と定義しており、ソフトとハードが一体となった総合的なまちづくりを進めていくために、共に理解し合い、知恵を出し合いながら「みんな」で協働することが重要です。

そこで、学識経験者や地元有識者などで、構成する「検討委員会」、みんなが参加する「まちづくり会議」を重ね、まちづくりを推進していくための「シンポジウム」を開催し、三茶のミライを検討していくための様々な意見を出し合い、まちづくりにおける気運を醸成してきました。

【11:19～】スライド「検討委員会」

「検討委員会」の構成です。都市計画の学識経験者として、本日メッセージをいただいた東京都市大学の坂井教授をはじめ、交通計画、建築計画、都市・地域経営、産業、文化の専門家としての学識経験者、地元有識者として、町会、商店街、事業者、区のメンバーも入り、合計18名で構成されています。多様な立場からの意見を踏まえ、まちづくり推進のために専門的かつ幅広く（仮称）「三茶のミライ」の調査及び検討をしてまいりました。

【12:09～】スライド「第1回まちづくり会議」1/2枚目

続きまして、まちづくり会議についてです。2019年10月にスカイキャロットにて、第1回三軒茶屋駅周辺まちづくり会議を開催し、約80名の方にお集まりいただきました。ここでは、参加者の方それぞれの「三茶のいいね」について意見を出し合い、駅を中心としたマップに落とし込み「三茶の魅力再発見マップ」を作成しました。

【12:42～】スライド「第1回まちづくり会議」2/2枚目

マップには、個性的な店舗が集中しているエリア、自然が多いエリア、三茶のシンボルともいえるスポットなど、参加者の「三茶愛」が続々と出てまいりました。

【12:57～】スライド「第2回まちづくり会議」1/2枚目

第2回まちづくり会議は、2019年11月、池尻小学校の体育館で開催いたしました。約60名の方にお集まりいただき、

【13:12～】スライド「第2回まちづくり会議」2/2枚目

三軒茶屋駅周辺の「理想のまちの姿」や「それを実現するための取組み」について意見を出し合い、身近な一歩から大きな構想まで各々が考える未来像を、発表しました。

【13:27～】スライド「まちづくりシンポジウム」1/2枚目

第1回、2回のまちづくり会議を経て、さらに三軒茶屋駅周辺のまちづくりの気運を高めていくために、2019年12月にまちづくりシンポジウムを開催いたしました。年末かつ冷たい雨が降る日ではありましたが、約100名の方にお集まりいただきました。基調講演には「株式会社マガジンハウス」の及川様が登壇し、「住む人と訪れる人という枠を超え、多様な人が参加するまちづくりをしていくと非常に面白くなるのではないか」とのメッセージをもらい、

【14:10～】スライド「まちづくりシンポジウム」2/2枚目

トークセッションでは、区長、有識者、まちづくりに取り組む事業者など7名が登壇し、ディスカッションを展開し、参加者からの意見を「暮らしと環境」、「商いとビジネス」、「基盤

と交通とインフラ」に分類し、これらを踏まえて、意見交換を行いました。

【14:37～】スライド「第3回まちづくり会議」1/3 枚目

第3回まちづくり会議は、2021年1月に（仮称）三茶のミライの策定状況の報告や、まちづくり活動の情報を共有し、新たな連携に繋げ活動の輪を広げるために開催しました。

【14:55～】スライド「第3回まちづくり会議」2/3 枚目

まちづくり活動紹介者として、太子堂四丁目西山町会、三軒茶屋町会をはじめ、太子堂2・3丁目まちづくり協議会、三軒茶屋銀座商店街振興組合、三軒茶屋商店街振興組合、三宿四二〇商店会、

【15:20～】スライド「第3回まちづくり会議」3/3 枚目

さらに、昭和女子大学、国土館大学、三茶ワーク、東急、Plat、みんな電力、さんちゃこ、プレーリヤカーコパン、おきらくごきらく広場、三軒茶屋二丁目地区市街地再開発準備組合、三軒茶屋まち道楽実行委員会、世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人共生会 SHOWA、せたがや文化財団、ものづくり学校、世田谷区の21の団体が参加し、参加者の方々と活発に意見交換を行いました。当日は、オンラインで開催し、約120名以上の参加でにぎわいました。

【16:10～】スライド「みんなの意見をどのように活かされたのか？」1/2 枚目

第1回、第2回のまちづくり会議及びシンポジウムで合計947枚の付せんにより意見を出し合い、

【16:20～】スライド「みんなの意見をどのように活かされたのか？」2/2 枚目

この付せんを整理・分類し、検討委員会などでの検討を経て、まちのテーマごとに特色・課題を整理し、まちの未来像を描き、まちの未来像実現のための取組みを導き出しました。

【16:37～】スライド「みんなの言葉から導き出したまちづくりのテーマ」

このスライドは、まちづくり会議やシンポジウムの参加者で共有したみんなの言葉になります。これらの言葉は、日常生活で感じられるものや都市経営の視点など多種多様です。この言葉を基に、検討委員会からの専門的な視点による意見や助言も踏まえながら、「文化」、「商業」、「地域参加」など、9つのまちづくりのテーマに整理しました。

【17:09～】スライド「9つの未来像と未来像実現のための取組み体系」

こちらのスライドは、基本方針と三茶のミライで描いた9つの未来像、その姿、未来像実

現のための取組みを、体系的に整理したものになります。

【17:25～】スライド「9つの未来像」

このスライドは、9つの未来像です。より多くの人々が、興味を持ち、次の行動を起こすきっかけとなるよう、イラストを交えながら9つの未来像を実現したまちの姿を描きました。

【17:43～】スライド「(未来像1) 歴史を継承しアートを生み出すまち」

まちの未来像は、9つありますが、まず1つ目の未来像1は、「歴史を継承し、アートを生み出すまち」です。

次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されており、文化創造や活動参加の機会を増やし、作り手が集う場所でアートや文化が生まれ、まち全体にあふれているまちの姿を描いています。

これを実現するために、「芸術創造や活動への幅広く多様な参加の推進と制度的支援」、「文化施設などのインフラを積極的に利活用し、人と人を繋ぐ仕組み構築」などの取組みを記載しています。

【18:39～】スライド「(未来像2) 個性豊かな店が通りを彩るまち」

次に、未来像2は、「個性豊かな店が通りを彩るまち」です。個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育み、様々な事業者や商店などが連携することにより、新たな魅力を生み、まちの活気が継続しているまちの姿です。未来像を実現するための取組みとして、「魅力あるまち並みなどを継承するためのまちづくりルール構築」や、「地域活性化に向けた、多世代が楽しめるイベント実施」などを記載しています。

【19:20～】スライド「(未来像3) 暮らしの近くに『働く』があるまち」

続いて、未来像3は、「暮らしの近くに「働く」があるまち」です。暮らしの近くで、様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいています。また、起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなチャンスが生まれているまちです。「多様な働き方促進に向けたICT環境整備」や、「自由自在な仕事の仕方ができるオフィス整備及び利用推進」などを取組みとして記載しています。

【20:00～】スライド「(未来像4) くつろぎの空間が育まれるまち」

未来像4は、「くつろぎの空間が育まれるまち」です。まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋いでいます。駅周辺は、清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和し、人々の愛着心を育てています。これを実現するための取組みとして、「街区一体化などの面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備」、「質、量ともに豊かな地域にするための緑地空間整備」などを記載しています。

【20:45～】スライド「(未来像5)誰でも気軽に出かけられるまち」

未来像5は、「誰でも気軽に出かけられるまち」です。地上や地下に広がる複層的なまちなかをだれもが安心して移動ができ、まち全体がつながっています。公共交通や自転車、新たなモビリティなどの移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっています。「通行環境の向上を目指した歩きやすい歩行者空間整備」や「南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備」などの取組みが記載されています。

【21:28～】スライド「(未来像6)拠点性を生かして人々の活動を支えるまち」

未来像6です。未来像6は、「拠点性を生かして人々の活動を支えるまち」です。古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を生かし、公共サービスをはじめとした拠点ならではの機能が集約されることで、拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えています。これを実現するにあたり、「市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と機能の集積」、「地下空間における魅力ある広場などの創出」などを記載しています。

【22:15～】スライド「(未来像7)災害に強く、安全・安心のあるまち」

続きまして、未来像7です。未来像7は、「災害に強く、安全・安心のあるまち」です。まちに関わる人々が連携できる、共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っています。また、建物の不燃化、耐震化、防災空間の充実などにより、防災性が向上しています。「建物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進」、「駅周辺の防災性向上のための帰宅困難者などの滞留空間整備」などを、取組みとして記載しています。

【23:05～】スライド「(未来像8)暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち」

未来像8になります。「暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち」です。多様な暮らしが重なり合う中で、助け、支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれ、包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出しています。これを実現するための取組みとして、「パブリックスペースを活用した地域活動の推進」、「団体の分野や世代を超えた交流を促進させるイベント実施」などを記載しています。

【23:51～】スライド「(未来像9)誰もがまちづくりに関われるまち」

最後に9つ目の未来像9です。「誰もがまちづくりに関われるまち」です。まちに関わる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがあります。始める、支える、賛同するなど、様々な形でまちづくりに関われる機会が提供されています。「自主的なまちづくり推進体制及び取組み参加推進の仕組み構築」や「まちづくりに向けた区民参加の仕組み構築」などを未来像実現のための取組みとして記載しています。

【24:36～】スライド「まちの空間デザインの大切な4つのポイント」

ここまでご報告した9つの未来像実現の取組みには、今ある空間を活用して始められるものと、新たな空間の創出によるものがあります。これらを進めていくためには、多様な主体が連携し、具体化していくことが必要です。今ある空間の利活用や新たな空間の創出、まちづくりの仕組みや、ルールを構築を一体的に捉えて、「まちの空間デザイン」として、基本方針を基に、4つのポイントを整理しました。1つ目は、「まちの個性、魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用」です。2つ目は、「拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上」です。3つ目は、「歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗り換えなど回遊空間の向上」です。4つ目は、「南北移動の円滑化、地下空間の活用創出」になります。

【25:50～】スライド「まちの空間デザインのポイントイメージ図」

この4つのポイントを踏まえ、利活用が期待できる場所や空間創出を目指す場所をポイントイメージ図において表現しました。図の下部に凡例もごさいますが、先ほどご説明した4つのポイントの他に、交流の軸や回遊・交流に資する地域資源も合わせて記載しています。

【26:17～】スライド「今後の展望 未来像実現のイメージ」

続いて、今後の展望です。「参加と協働による持続可能なまちづくり」として、情報発信をはじめ、社会実験など、段階ごとの取組みをスパイラルアップ形式で表現した、9つの未来像実現へのイメージです。今後「三茶のミライ」を基に、まちづくり推進体制の構築や、社会実験を中心にみんなができる取組みに参加し、身近な活動を行いながら協働による持続可能なまちづくりを進めていきます。

【26:55～】スライド「まちづくりを推進するための仕組みづくり」

参加と協働によるまちづくりを推進するためには、まちづくりの担い手の連携や新規活動者の継続的な参加が重要です。そのために、現在開催しているまちづくり会議を発展させ、担い手が育ち、繋がる仕組みを作っていきます。この仕組みでは、担い手同士のマッチング、人材育成、まちづくり会議などでの活動報告や新たなまちの動きなどの情報共有、さらに地域内外に対してまちの魅力を発信するといった役割を果たしていきたいと考えています。

【27:42～】スライド「担い手が育ち繋がる仕組みを支える組織について」

そしてこの仕組みを支えていくには、行政主体ではなく、中立的な立場で支援する「まちづくり支援組織」がその運営を担うことが望ましいと考えています。この支援組織は、「担い手が育ち繋がる仕組み」を介して、担い手が、活動の価値を高めていくための連携を支援し、9つの未来像実現のための取組みを実施するための場や、機会の環境整備、行政や関係

者間の調整、さらにまちづくり活動のきっかけ作りのための先導的取組みを展開し、まちづくりの推進における機能的でオープンな体制の一翼を担います。

【28:32～】スライド「まちづくり推進体制」

持続可能な協働のまちづくりを推進するためには、担い手や支援組織、世田谷区が互に関係性を持ちつつ、それぞれの立場や強みを生かしながら、参加できる体制が必要です。学識経験者や、地元有識者などの専門家は、「三茶のミライ」検討段階で設置している検討委員会の役割を後継した会議体として、今後のまちづくりに助言をしていただきたいと考えています。

三軒茶屋駅周辺では、現在、様々なまちづくり活動があるからこそ区の内外に誇れる魅力が生まれています。今後、「三茶のミライ」を活用しながら9つの未来像実現のための取組みを積み重ね、みんなが、まちづくりに関わることができる、推進体制を構築していきたいと考えています。

【29:36～】スライド「推進プロセス」

続きまして、まちづくりの推進プロセスです。計画策定等を進めている、この間を準備期としています。計画策定後の創成期では、まちづくり会議を継続し、社会実験などの取組みを推進し、まちづくりの気運と熟度を高めていきます。成長期では、社会実験やみんなと連携した活動のフィードバックから、取組み内容を具体化し、その取組みを計画的に進めることにより、「三茶のミライ」を実現していきます。

【30:20～】スライド「三茶のミライを一緒に実現していきましょう」

（仮称）三茶のミライ（素案）の取りまとめのご報告は以上となります。
ご清聴ありがとうございました。